



# 「東アジアの社会大変動と人口センサス」

学 習 院 大 学

【 国際社会科学部 教授 末廣 昭 】

## 研究者紹介

1951年生まれ。東京大学大学院経済学研究科修了。アジア経済研究所、大阪市立大学経済研究所をへて、1992年から2016年まで東京大学社会科学研究所。2016年4月から現職。

タイ国チューラーロンコン大学客員研究員、ベルリン、メキシコシティ、リヨンなどでアジア経済論の集中講義を行う。専門はアジア経済社会論、タイ国地域研究。2010年、東南アジア研究で紫綬褒章を受章。

## 本研究の目的・内容

人口センサスは、10年もしくは5年に1回、国家が国民並びに国土に一定期間以上滞在している外国人全体を対象として行う人口動態調査である。

国連人口課が質問票の内容についてガイダンス(勧告)を提示するため、同一項目についての国際比較と、当該国の時系列的な変化(10年ごとの変化)を把握することができる基本的データである。また、質問項目は人口動態に限らず、家族構成、就業構造、国内と国外のひとの移動、民族と宗教、使用言語など多岐にわたっており、アジアであれ、他の地域であれ、人口構造を含む社会変動を知る上では第一級の資料と言える。

私たちの共同研究では、日本、中国、香港、韓国、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、フィリピン、東ティモール、ブルネイの11カ国・地域を取り上げ、共通のフォーマットにしたがって研究と分析を進め、2017年に本(下記研究業績の書著1)を出版した。

## 本研究の新規性・優位性、成果の応用・活用

人口センサスを利用した人口学的研究はいくつもある。ところが、各国・地域の人口センサスの歴史、質問項目の変遷、人口センサスの実施体制(予算、人員、訓練など)を正面から取り上げた研究は皆無に近い。同時に、人口センサスを活用して、社会構造や労働市場の分析を行った研究もほとんどなく、私たちの共同研究がいわばパイオニア的な位置にある。

## 主な研究業績

【著書1】末廣昭・大泉啓一郎編著『東アジアの社会大変動——人口センサスが語る世界』名古屋大学出版会、2017年9月、343頁。

【著書2】末廣昭『新興アジア経済論——キャッチアップを超えて』岩波書店、2014年、

## 応対できる研究・企業等への希望

1. 共同研究
2. 受託研究/評価試験
3. 学術指導/コンサルテイング
4. 講演/出張講義
5. 寄付金受入
6. 報道等の取材/出演
7. その他( )

研究者より:

【お問い合わせ】

学習院大学 研究支援センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL: 03-5992-1228 Mail: Ken9-off@gakushuin.ac.jp

URL: <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/research/index.html>



学習院大学 広報大使

さくまサン

©12/18 GAKUSHUIN